

近年、高齢者の就業人口は増加しており、それにつれて職場における転倒災害も増加しております。厚生労働省では、労働災害防止団体とともに転倒災害防止に向けた取り組みとして、「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を開始しました。

STOP！転倒災害！



4S~KY~RA~チェックリスト等で対策しよう！！！！

【転倒災害の現状】

転倒災害は、休業4日以上の死傷災害全体の2割以上を占め、その割合は増加しています。特に50歳以上の転倒災害は、転倒災害全体の約6割を占めています（厚労省・平成25年労働者死傷病報告）。

【転倒災害の形と主な原因】

転倒災害には、大きく分けて次の3つのタイプがあります。

① 「滑り」による転倒災害

(主な原因)

- ・床が滑りやすい素材である。あるいは通路面が凍結している。
- ・床に水や油が飛散している。(飲食店や食料品製造業において多く発生)
- ・ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。

② 「つまずき」による転倒災害

(主な原因)

- ・床に凸凹や段差がある。
- ・床に放置された荷物や商品などがある。

③ 「踏み外し」による転倒災害

(主な原因)

- ・大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での移動作業。

【転倒災害を防ぐには】

- ① 災害が多発している場所や環境、行動に着目して、原因を洗い出し、順次対策を講じていく。
- ② チェックリストを活用して、設備管理面の問題や作業方法の問題について確認し、転倒災害の原因を減らしていく。
- ③ 4S 活動（整理、整頓、清掃、清潔）、KY（危険予知）活動、RA(リスクアセスメント)活動等を活性化する。
- ④ 『**STOP！転倒災害プロジェクト 2015**』に呼応して、ポスターを掲示する。また、要注意箇所への「足元注意」のステッカーの貼り付けなどによる危険個所の見える化を実施する。

【転倒災害防止のためのチェックリスト活用による対策項目の例】

- ① 作業前には、各員が、リスクアセスメント等の諸活動に参加し、作業実施にあたり、当該作業の『重点対策目標』に対して『指差し呼称確認』を実施しているか。
- ② 各員が、身の回り品の整理・整頓を行っているか。
- ③ 出入口、通路、階段付近等に物を放置していないか。
- ④ 床の水たまりや氷、油、粉類などは、常時に取り除いているか。
- ⑤ 段差のある個所、滑りやすい場所などに、注意を促す標識等を付けているか。
- ⑥ 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されているか。
- ⑦ ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知しているか。
- ⑧ 職場巡視を行い、通路、階段付近等の状況をチェックしているか。
- ⑨ 大きな物、嵩張る荷物を持ちすぎて足元が見えないことはないか。
- ⑩ ポケットに手を入れながら、人と話しながら、携帯電話スマホ等を使いながら歩いていないか。
- ⑪ 作業靴は、作業に適した耐滑性能を持つ滑りにくいものを履いて紐を確実に締めているか。
- ⑫ 作業開始前には、ストレッチ体操や転倒予防に効果のある運動を実施しているか。
- ⑬ 転倒災害防止の知識を養うため教育を実施しているか。
- ⑭ 特に、高齢作業者に配慮した転倒防止対策と職場改善や作業者の意見、要望等の聞き取りを行っているか。
- ⑮ 転倒、滑り防止に効果のある安全靴の使用、及び出入口周辺に滑りにくいマットを敷くなどの設備対策を実施しているか。

以 上